

2022年08月24日(水)

「水曜サロン with 赤堀会長」第3期 第3回(通算第33回)

授業や先生をサポートする教育データ活用

田畑 太嗣 氏 (NEC 文教・科学ソリューション統括部 上席プロフェッショナル)

1. 内容

- ・GIGAスクール“前夜”～2018年のオーストラリア視察にて～
- ・GIGAスクール後の今「授業や先生をサポートする教育データ活用」
～相互運用性を前提としたEBPM実現へ～
 - (1)大阪市教育委員会様「校務×学習のダッシュボードによる学級経営改善」
 - (2)京都市教育委員会様「協働学習支援サービスを活用した授業改善」
 - (3)株式会社EDL×NEC「Google Workspace for Education Plusの活用見える化」

2. 所感

2018年の赤堀さんとのオーストラリア視察で刺激を受けて、当時、日本ではまだ学校に入っていないかったChromebookの生産計画に着手したという話から始まり、オーストラリアでは、様々な会社が出している学習ツールが、国際標準規格のLTIなどで繋がっていて、個別最適で協働的な学びは当たり前で、学びの軌跡、各社のデータを合わせて使い、サポートする仕組みが定着している様子を紹介していただきました。

次の事例紹介は、オーストラリアのように、複数のシステム、複数のアプリケーションのデータを組み合わせ、ライフログ(生活の様子)、スタディログ(学習の様子)、アシストログ(指導記録)を、ダッシュボードに合わせて表現しているものでした。そこから変化を見つけて子どもたちへのコミュニケーションを工夫しているとのことでした。また話し合い活動の事例では、発話をタイムラインで記録を残し可視化するアプリの活用でした。子どもたちはすぐにグループで振り返ることができ、先生はその記録から子どもたちへフィードバックする流れも紹介いただきました。

質疑の一部を紹介します。先生の発話の記録や板書、表情は残るのか、データの保管期間は、コンプラはどうしているのかといった質問がありました。先生は、データをもとに、発話の改善を行い、子どもたちの1年間の成長を数字で確認したり(4月は発言者が30%だったものが2学期には70%、年度末には100%)、保護者面談で活用したりと、授業時間内外でのデータ利活用が進んでいました。コンプラについては、保護者へのフィードバックを前提とした承諾や分割保管など管理の工夫も共有いただきました。また、子どもたちが自分の成長を自分で確認出来る、興味のあるテーマを拾い上げたりといった更なる発展に関する議論も行われました。データ利活用は、研究の段階から実践の段階に移ってきていると感じる時間となりました。 田畑さん、本当にありがとうございました。

以上